

















































524 織廻 (名) そのほり。夫木、洗路局のそのほり。...

525 異損 (名) 例に違ひて、田地の收穫の減少をいふ。...

526 異存 (名) 人と異なること。...

527 射損 (名) 射はらず。...

528 異損 (名) 異損をした。...

529 板 (名) 木を薄く平に掘り割つたもの。...

530 板 (名) 板を薄く平に掘り割つたもの。...

531 板 (名) 板を薄く平に掘り割つたもの。...

532 板 (名) 板を薄く平に掘り割つたもの。...

533 板 (名) 板を薄く平に掘り割つたもの。...

534 板 (名) 板を薄く平に掘り割つたもの。...

535 板 (名) 板を薄く平に掘り割つたもの。...

536 板 (名) 板を薄く平に掘り割つたもの。...

537 板 (名) 板を薄く平に掘り割つたもの。...

538 板 (名) 板を薄く平に掘り割つたもの。...

539 板 (名) 板を薄く平に掘り割つたもの。...

540 板 (名) 板を薄く平に掘り割つたもの。...

541 板 (名) 板を薄く平に掘り割つたもの。...

542 板 (名) 板を薄く平に掘り割つたもの。...

543 板 (名) 板を薄く平に掘り割つたもの。...

544 板 (名) 板を薄く平に掘り割つたもの。...

545 板 (名) 板を薄く平に掘り割つたもの。...

546 板 (名) 板を薄く平に掘り割つたもの。...

547 板 (名) 板を薄く平に掘り割つたもの。...

548 板 (名) 板を薄く平に掘り割つたもの。...

549 板 (名) 板を薄く平に掘り割つたもの。...

550 板 (名) 板を薄く平に掘り割つたもの。...

524 體殊俗、各有所屬。...

525 衣帯 (名) 衣と帶と。...

526 板縁 (名) 板に張りたる縁。...

527 板 (名) 板に張りたる縁。...

528 板 (名) 板に張りたる縁。...

529 板 (名) 板に張りたる縁。...

530 板 (名) 板に張りたる縁。...

531 板 (名) 板に張りたる縁。...

532 板 (名) 板に張りたる縁。...

533 板 (名) 板に張りたる縁。...

534 板 (名) 板に張りたる縁。...

535 板 (名) 板に張りたる縁。...

536 板 (名) 板に張りたる縁。...

537 板 (名) 板に張りたる縁。...

538 板 (名) 板に張りたる縁。...

539 板 (名) 板に張りたる縁。...

540 板 (名) 板に張りたる縁。...

541 板 (名) 板に張りたる縁。...

542 板 (名) 板に張りたる縁。...

543 板 (名) 板に張りたる縁。...

544 板 (名) 板に張りたる縁。...

545 板 (名) 板に張りたる縁。...

546 板 (名) 板に張りたる縁。...

547 板 (名) 板に張りたる縁。...

548 板 (名) 板に張りたる縁。...

549 板 (名) 板に張りたる縁。...

550 板 (名) 板に張りたる縁。...

524 諸家業記、近來、飾小路家、醫道之家の如くに相成り候。...

525 板 (名) 板に張りたる縁。...

526 板 (名) 板に張りたる縁。...

527 板 (名) 板に張りたる縁。...

528 板 (名) 板に張りたる縁。...

529 板 (名) 板に張りたる縁。...

530 板 (名) 板に張りたる縁。...

531 板 (名) 板に張りたる縁。...

532 板 (名) 板に張りたる縁。...

533 板 (名) 板に張りたる縁。...

534 板 (名) 板に張りたる縁。...

535 板 (名) 板に張りたる縁。...

536 板 (名) 板に張りたる縁。...

537 板 (名) 板に張りたる縁。...

538 板 (名) 板に張りたる縁。...

539 板 (名) 板に張りたる縁。...

540 板 (名) 板に張りたる縁。...

541 板 (名) 板に張りたる縁。...

542 板 (名) 板に張りたる縁。...

543 板 (名) 板に張りたる縁。...

544 板 (名) 板に張りたる縁。...

545 板 (名) 板に張りたる縁。...

546 板 (名) 板に張りたる縁。...

547 板 (名) 板に張りたる縁。...

548 板 (名) 板に張りたる縁。...

549 板 (名) 板に張りたる縁。...

550 板 (名) 板に張りたる縁。...

524 用ふる表面の平かなる硝子。...

525 板唐戸 (名) 板の上下に補強を取り付けたる、開閉する戸。...

526 痛 (名) 痛しと思ふ。...

527 痛 (名) 痛しと思ふ。...

528 痛 (名) 痛しと思ふ。...

529 痛 (名) 痛しと思ふ。...

530 痛 (名) 痛しと思ふ。...

531 痛 (名) 痛しと思ふ。...

532 痛 (名) 痛しと思ふ。...

533 痛 (名) 痛しと思ふ。...

534 痛 (名) 痛しと思ふ。...

535 痛 (名) 痛しと思ふ。...

536 痛 (名) 痛しと思ふ。...

537 痛 (名) 痛しと思ふ。...

538 痛 (名) 痛しと思ふ。...

539 痛 (名) 痛しと思ふ。...

540 痛 (名) 痛しと思ふ。...

541 痛 (名) 痛しと思ふ。...

542 痛 (名) 痛しと思ふ。...

543 痛 (名) 痛しと思ふ。...

544 痛 (名) 痛しと思ふ。...

545 痛 (名) 痛しと思ふ。...

546 痛 (名) 痛しと思ふ。...

547 痛 (名) 痛しと思ふ。...

548 痛 (名) 痛しと思ふ。...

549 痛 (名) 痛しと思ふ。...

550 痛 (名) 痛しと思ふ。...

524 且つ、其の配進の時より、五分時間以内なるを要す。...

525 依託物 (名) 依託したる品もの。...

526 依託物 (名) 依託したる品もの。...

527 依託物 (名) 依託したる品もの。...

528 依託物 (名) 依託したる品もの。...

529 依託物 (名) 依託したる品もの。...

530 依託物 (名) 依託したる品もの。...

531 依託物 (名) 依託したる品もの。...

532 依託物 (名) 依託したる品もの。...

533 依託物 (名) 依託したる品もの。...

534 依託物 (名) 依託したる品もの。...

535 依託物 (名) 依託したる品もの。...

536 依託物 (名) 依託したる品もの。...

537 依託物 (名) 依託したる品もの。...

538 依託物 (名) 依託したる品もの。...

539 依託物 (名) 依託したる品もの。...

540 依託物 (名) 依託したる品もの。...

541 依託物 (名) 依託したる品もの。...

542 依託物 (名) 依託したる品もの。...

543 依託物 (名) 依託したる品もの。...

544 依託物 (名) 依託したる品もの。...

545 依託物 (名) 依託したる品もの。...

546 依託物 (名) 依託したる品もの。...

547 依託物 (名) 依託したる品もの。...

548 依託物 (名) 依託したる品もの。...

549 依託物 (名) 依託したる品もの。...

550 依託物 (名) 依託したる品もの。...

524 烟及皇居之明被召、願與、願許、官御方方召振與入御安請寺殿。...

525 痛事 (名) 苦痛を感ずべきこと。...

526 痛事 (名) 苦痛を感ずべきこと。...

527 痛事 (名) 苦痛を感ずべきこと。...

528 痛事 (名) 苦痛を感ずべきこと。...

529 痛事 (名) 苦痛を感ずべきこと。...

530 痛事 (名) 苦痛を感ずべきこと。...

531 痛事 (名) 苦痛を感ずべきこと。...

532 痛事 (名) 苦痛を感ずべきこと。...

533 痛事 (名) 苦痛を感ずべきこと。...

534 痛事 (名) 苦痛を感ずべきこと。...

535 痛事 (名) 苦痛を感ずべきこと。...

536 痛事 (名) 苦痛を感ずべきこと。...

537 痛事 (名) 苦痛を感ずべきこと。...

538 痛事 (名) 苦痛を感ずべきこと。...

539 痛事 (名) 苦痛を感ずべきこと。...

540 痛事 (名) 苦痛を感ずべきこと。...

541 痛事 (名) 苦痛を感ずべきこと。...

542 痛事 (名) 苦痛を感ずべきこと。...

543 痛事 (名) 苦痛を感ずべきこと。...

544 痛事 (名) 苦痛を感ずべきこと。...

545 痛事 (名) 苦痛を感ずべきこと。...

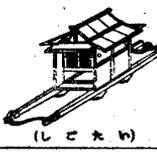
546 痛事 (名) 苦痛を感ずべきこと。...

547 痛事 (名) 苦痛を感ずべきこと。...

548 痛事 (名) 苦痛を感ずべきこと。...

549 痛事 (名) 苦痛を感ずべきこと。...

550 痛事 (名) 苦痛を感ずべきこと。...









一のたぐみなりけるち麻呂ら六人を召して「宇津保風流」を「一にて讀む」...

ちもつのももな一 「意地」 思ひ込みたる事...

ちちち 「一打」 簡條書下、一羽...

ちちち 「一葉」 此の波、忽ち...

ちちち 「一葉草」 此の葉草...

ちちち 「一葉松」 此の葉松...

ちちち 「一葉草」 此の葉草...



一河津二夜同宿。一日夫妻皆皆皆是光...

狂言此の出度い市場に、一の杭に...

奪、唯以二大事因縁放出于世...

て、其の通りなること。狂言人自然の...

よくい。客。第一のつく。い。だんな。

理の二ならず異なざること。首勝殿...

無花果(名) 植菓科...

一先(名) 一番ききに在るものより...

一重棚(名) 茶室に釣りに附く...

一重(名) 一人の男の男の男...

一男(名) 一人の男の男の男...

一任(名) 總べての事を、其の人に任すこと...

一汁一菜(句)...

一代(名) 其の人が、其の國又は一...

一段活用(名) 文法動詞の語尾變化の一。かみち...

一弟子(名) 第一番の門弟。一番弟子...

一日(名) 朝より暮までの間。ひとひ。ひ...

一人前(名) 一人に充てたる負擔。又は供給額。一人分...

一乗(名)...

一膳飯(名)...

一膳飯屋(名)...

一團(名)...

一途(名)...

一人掛(名)...

一存(名)...

一初(名)...

一活(名)...

一巻(名)...

一巻(名)...

一巻(名)...

一若(名)...



















504-111 刀 (名) 一本の刀。  
 504-112 刀影 (名) 刀に影を映したる事。  
 504-113 一刀流 (名) 江戸時代の初め伊藤一刀斎の創りし劍術の一派。  
 504-114 一握頭 (名) 頭頂を握りし事。  
 504-115 一握手半 (名) 握りし手半。  
 504-116 一握手 (名) 握りし手。  
 504-117 一握手半 (名) 握りし手半。  
 504-118 一握手 (名) 握りし手。  
 504-119 一握手半 (名) 握りし手半。  
 504-120 一握手 (名) 握りし手。

505-111 一箇 (名) 一箇の箇。  
 505-112 一箇 (名) 一箇の箇。  
 505-113 一箇 (名) 一箇の箇。  
 505-114 一箇 (名) 一箇の箇。  
 505-115 一箇 (名) 一箇の箇。  
 505-116 一箇 (名) 一箇の箇。  
 505-117 一箇 (名) 一箇の箇。  
 505-118 一箇 (名) 一箇の箇。  
 505-119 一箇 (名) 一箇の箇。  
 505-120 一箇 (名) 一箇の箇。

506-111 五箇 (名) 五箇の箇。  
 506-112 五箇 (名) 五箇の箇。  
 506-113 五箇 (名) 五箇の箇。  
 506-114 五箇 (名) 五箇の箇。  
 506-115 五箇 (名) 五箇の箇。  
 506-116 五箇 (名) 五箇の箇。  
 506-117 五箇 (名) 五箇の箇。  
 506-118 五箇 (名) 五箇の箇。  
 506-119 五箇 (名) 五箇の箇。  
 506-120 五箇 (名) 五箇の箇。

507-111 言附口 (名) 言附の口。  
 507-112 言附口 (名) 言附の口。  
 507-113 言附口 (名) 言附の口。  
 507-114 言附口 (名) 言附の口。  
 507-115 言附口 (名) 言附の口。  
 507-116 言附口 (名) 言附の口。  
 507-117 言附口 (名) 言附の口。  
 507-118 言附口 (名) 言附の口。  
 507-119 言附口 (名) 言附の口。  
 507-120 言附口 (名) 言附の口。

508-111 五箇 (名) 五箇の箇。  
 508-112 五箇 (名) 五箇の箇。  
 508-113 五箇 (名) 五箇の箇。  
 508-114 五箇 (名) 五箇の箇。  
 508-115 五箇 (名) 五箇の箇。  
 508-116 五箇 (名) 五箇の箇。  
 508-117 五箇 (名) 五箇の箇。  
 508-118 五箇 (名) 五箇の箇。  
 508-119 五箇 (名) 五箇の箇。  
 508-120 五箇 (名) 五箇の箇。

509-111 五目 (名) 五目の目。  
 509-112 五目 (名) 五目の目。  
 509-113 五目 (名) 五目の目。  
 509-114 五目 (名) 五目の目。  
 509-115 五目 (名) 五目の目。  
 509-116 五目 (名) 五目の目。  
 509-117 五目 (名) 五目の目。  
 509-118 五目 (名) 五目の目。  
 509-119 五目 (名) 五目の目。  
 509-120 五目 (名) 五目の目。









の庭には、楓松、櫻柳の水をかかりし  
て植うべきを、略して唯一本のみ植うる  
こと。遊園秘抄「又一本がかりもあり  
庭せば所に一本植ふ、めぐるには八人  
立ちまはり陳せ。元徳の昔、仁徳殿の北  
向の御室にも、松の切立て一本より  
侍りしなり。」

**一本掛** (名) 相撲の  
手の一。四手に組み合ふ内、我  
手を引き付け、  
我が右足ならば  
相手の右足左足  
ならば左足  
に、内より足を掛け、掛りて投げ倒  
す。して、愛憎の念をさしはさまぬ氣。  
細粒にして、まじり氣のなきこと。

**一本掛** (名) 一丁  
に、愛憎の念をさしはさまぬ氣。  
細粒にして、まじり氣のなきこと。

**一本掛** (名) 一丁  
に、愛憎の念をさしはさまぬ氣。  
細粒にして、まじり氣のなきこと。

**一本掛** (名) 一丁  
に、愛憎の念をさしはさまぬ氣。  
細粒にして、まじり氣のなきこと。

の水押入の一種。一本より成る故にい  
ふ。其の頂の先に裝飾として、つく  
繩等にて頂の繩を垂れ之を燈籠とい  
ふ。此の水押入は、前口(二)鐵手(二)  
附出(二)附出(二)對(二)除(二)潮切(二)  
類等の小名あり。

**一本槍** (名) 一本  
の槍にて勝負を定むること。甲陽軍鑑  
「一本槍を取きたるほどに高名帳にのせ  
て」其の人の常に行ふ唯一の得意の  
技。浮世風呂「はあ、一本槍ぢやな」  
目強ひて我意をおし通すこと。

**一本槍** (名) 古語。いと(暇に同  
じ)。萬一我が妻も給にかきとらむ伊豆麻  
呂「もが、旅ゆくあれは見つけしむばむ」

**一本槍** (名) 古語。いと(暇に同  
じ)。萬一我が妻も給にかきとらむ伊豆麻  
呂「もが、旅ゆくあれは見つけしむばむ」

**一本槍** (名) 古語。いと(暇に同  
じ)。萬一我が妻も給にかきとらむ伊豆麻  
呂「もが、旅ゆくあれは見つけしむばむ」

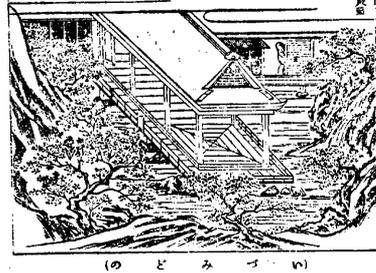
泉崎より製出する、支那製に倣(る)陶器。  
草の一種。享保の頃、和泉の女(の)鳴ひ  
もの。後者物語、和泉新田とて、白く麻  
色なる畑草を、女は多分のみたりと見ゆ  
つみたは。出水畑草 (名) 陸奥  
四水郡より産する畑草。

**泉殿** (名) 納涼などの  
つみとの。

**泉殿** (名) 納涼などの  
つみとの。

**泉殿** (名) 納涼などの  
つみとの。

**泉殿** (名) 納涼などの  
つみとの。



社に神物によりて製したりといふ薬。よ  
く瘡の病を治すといふ。

**出雲餅** (名) 餅の類  
の一種。享保の頃、和泉の女(の)鳴ひ  
もの。後者物語、和泉新田とて、白く麻  
色なる畑草を、女は多分のみたりと見ゆ  
つみたは。出水畑草 (名) 陸奥  
四水郡より産する畑草。

**出雲餅** (名) 餅の類  
の一種。享保の頃、和泉の女(の)鳴ひ  
もの。後者物語、和泉新田とて、白く麻  
色なる畑草を、女は多分のみたりと見ゆ  
つみたは。出水畑草 (名) 陸奥  
四水郡より産する畑草。

**出雲餅** (名) 餅の類  
の一種。享保の頃、和泉の女(の)鳴ひ  
もの。後者物語、和泉新田とて、白く麻  
色なる畑草を、女は多分のみたりと見ゆ  
つみたは。出水畑草 (名) 陸奥  
四水郡より産する畑草。

社に神物によりて製したりといふ薬。よ  
く瘡の病を治すといふ。

**出雲餅** (名) 餅の類  
の一種。享保の頃、和泉の女(の)鳴ひ  
もの。後者物語、和泉新田とて、白く麻  
色なる畑草を、女は多分のみたりと見ゆ  
つみたは。出水畑草 (名) 陸奥  
四水郡より産する畑草。

**出雲餅** (名) 餅の類  
の一種。享保の頃、和泉の女(の)鳴ひ  
もの。後者物語、和泉新田とて、白く麻  
色なる畑草を、女は多分のみたりと見ゆ  
つみたは。出水畑草 (名) 陸奥  
四水郡より産する畑草。

**出雲餅** (名) 餅の類  
の一種。享保の頃、和泉の女(の)鳴ひ  
もの。後者物語、和泉新田とて、白く麻  
色なる畑草を、女は多分のみたりと見ゆ  
つみたは。出水畑草 (名) 陸奥  
四水郡より産する畑草。

社に神物によりて製したりといふ薬。よ  
く瘡の病を治すといふ。

**出雲餅** (名) 餅の類  
の一種。享保の頃、和泉の女(の)鳴ひ  
もの。後者物語、和泉新田とて、白く麻  
色なる畑草を、女は多分のみたりと見ゆ  
つみたは。出水畑草 (名) 陸奥  
四水郡より産する畑草。

**出雲餅** (名) 餅の類  
の一種。享保の頃、和泉の女(の)鳴ひ  
もの。後者物語、和泉新田とて、白く麻  
色なる畑草を、女は多分のみたりと見ゆ  
つみたは。出水畑草 (名) 陸奥  
四水郡より産する畑草。

**出雲餅** (名) 餅の類  
の一種。享保の頃、和泉の女(の)鳴ひ  
もの。後者物語、和泉新田とて、白く麻  
色なる畑草を、女は多分のみたりと見ゆ  
つみたは。出水畑草 (名) 陸奥  
四水郡より産する畑草。

「異種殊俗各有所異」 SP5 出入 (名) SP5 入ること。...

SP5 異條 (名) 異なりたるす。別様。...

SP5 夷狄 (名) えびす。野蠻。...

SP5 夷敵 (名) えびすの敵兵。...

SP5 出消 (名) てきばえのせぬ。...

SP5 出来 (自動) 出で来た。...

SP5 出居 (自動) 出で居る。...

SP5 出居少將 (名) 大將に同じ。...

SP5 出居次將 (名) 出居少將に同じ。...

SP5 出沙 (名) 満ちくる海潮。...

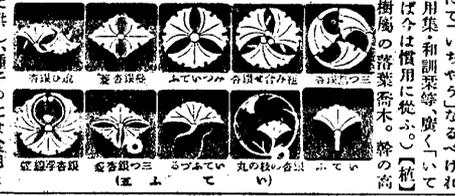
SP5 射手素襖 (名) 大造物。...

SP5 出立 (自動) 古語。...

SP5 出歯 (名) 出で歯。...

SP5 出映 (名) 出で映。...

SP5 銀杏 (名) 銀杏の葉。...



銀杏の葉の形





ちせたる歌のほめらるる」  
【S248】(名) いとほしきさま。い  
とほしき度合。竹取親の給ふこと  
したるよりなみ申さんこといとし  
きたり。梅離れをゆかしと申ししる  
源三小君いとほしきとねぶたもあ  
らまどありき」  
【S249】(名) いとほしむこと。源  
三小君のいとしむこと。源三  
女若き人のいとしむこと。源三  
たり給ひて「今銀白河院に御い  
とほしみの人にておほしき」  
【S250】(他動) いとほしく思ふ。  
不慮に思ふ。かほしく思ふ。横江  
伊保保(源三)「源三」山家集「我れ  
みぞ我が心をばいとほしむあはれむ人  
のなきにひけて」

【S251】(名) 射透(他動) 矢を射て  
じらぬ。源三「源三」兄にて候義朝な  
どこそかけ出て人すらも。それも真中さ  
して射とほし候ひなん」  
【S252】(名) 仕事の名も明。ひ  
ま。源三「源三」かたの月は照りたり  
御し候ひ。あまのいきりほはとし  
り見ゆ。同「あまのいきりほはとし  
て、ねばたの夜の伊刀末」に柄ある并  
て。古今五萬の事をまげ給ひ候ひ  
いとほし。今もその事をまげ給ひ候ひ  
り」【S253】(名) 伊保保(源三)いと  
ひて申して、あからさまに給ひ候ひ  
【S254】(名) 伊保保(源三)いと  
【S255】(名) 伊保保(源三)いと  
【S256】(名) 伊保保(源三)いと



【S257】(名) 眼明(自動) 眼があ  
ひまになる。義経(源三)「この信ど  
とまかく待て、夜とせさせ給へる」  
【S258】(名) 眼明(自動) 眼があ  
ひまになる。義経(源三)「この信ど  
とまかく待て、夜とせさせ給へる」  
【S259】(名) 眼明(自動) 眼があ  
ひまになる。義経(源三)「この信ど  
とまかく待て、夜とせさせ給へる」  
【S260】(名) 眼明(自動) 眼があ  
ひまになる。義経(源三)「この信ど  
とまかく待て、夜とせさせ給へる」

【S261】(名) 眼明(自動) 眼があ  
ひまになる。義経(源三)「この信ど  
とまかく待て、夜とせさせ給へる」  
【S262】(名) 眼明(自動) 眼があ  
ひまになる。義経(源三)「この信ど  
とまかく待て、夜とせさせ給へる」  
【S263】(名) 眼明(自動) 眼があ  
ひまになる。義経(源三)「この信ど  
とまかく待て、夜とせさせ給へる」  
【S264】(名) 眼明(自動) 眼があ  
ひまになる。義経(源三)「この信ど  
とまかく待て、夜とせさせ給へる」

【S265】(名) 眼明(自動) 眼があ  
ひまになる。義経(源三)「この信ど  
とまかく待て、夜とせさせ給へる」  
【S266】(名) 眼明(自動) 眼があ  
ひまになる。義経(源三)「この信ど  
とまかく待て、夜とせさせ給へる」  
【S267】(名) 眼明(自動) 眼があ  
ひまになる。義経(源三)「この信ど  
とまかく待て、夜とせさせ給へる」  
【S268】(名) 眼明(自動) 眼があ  
ひまになる。義経(源三)「この信ど  
とまかく待て、夜とせさせ給へる」

【S269】(名) 眼明(自動) 眼があ  
ひまになる。義経(源三)「この信ど  
とまかく待て、夜とせさせ給へる」  
【S270】(名) 眼明(自動) 眼があ  
ひまになる。義経(源三)「この信ど  
とまかく待て、夜とせさせ給へる」  
【S271】(名) 眼明(自動) 眼があ  
ひまになる。義経(源三)「この信ど  
とまかく待て、夜とせさせ給へる」  
【S272】(名) 眼明(自動) 眼があ  
ひまになる。義経(源三)「この信ど  
とまかく待て、夜とせさせ給へる」

S248 S249 S250 S251 S252 S253 S254 S255 S256 S257 S258 S259 S260 S261 S262 S263 S264 S265 S266 S267 S268 S269 S270 S271 S272









いぬめ 犬居 (名) 犬の如く手足を...

いぬやし 横枕 (名) 枕草科...

いぬえんどう (名) 植すめのまん...

いぬをこ (名) 犬男 (名) 男を賤しめ...

いぬあふ (名) 稲穂 (名) 穂を...

いぬかち (名) 稲穂子 (名) 穂を...

いぬかけのき (名) 稲穂 (名) 穂を...

いぬかき 稲刈 (名) 穂したる穂を...

いぬや 稲小屋 (名) 稲の見張番...

いぬすた 寝袋 (名) ねたる袋...

いぬたね 稲種 (名) 稲のたね...

いぬつぐ 稲春 (名) 稲をつま...

いぬつぐた 稲春歌 (名) 大伴會...

いぬつぐま 稲積車 (名) 刈り...

いぬつぐ 稲積 (自動) いぬつぐ...

いぬのた 稲臺 (名) 三方など...

いぬのひつとも 稲一巴 (名) 稲...

いぬばたけ 稲畑 (名) 稲を作る畑...

いぬの丸 稲穂丸 (名) 稲穂...

いぬのまる 稲穂丸 (名) 稲穂...

いぬの丸 稲穂丸 (名) 稲穂...







































入達 孤軍 (名) 橋梁の名。
いりぢがへる 入達 (自動) 前條の口説。
いりぢがへる 入達 (自動) 前條の口説。
いりぢがへる 入達 (自動) 前條の口説。

いりぢがへる 入達 (自動) 前條の口説。
いりぢがへる 入達 (自動) 前條の口説。
いりぢがへる 入達 (自動) 前條の口説。

いりぢがへる 入達 (自動) 前條の口説。
いりぢがへる 入達 (自動) 前條の口説。
いりぢがへる 入達 (自動) 前條の口説。



いりぢがへる 入達 (自動) 前條の口説。
いりぢがへる 入達 (自動) 前條の口説。
いりぢがへる 入達 (自動) 前條の口説。

いりぢがへる 入達 (自動) 前條の口説。
いりぢがへる 入達 (自動) 前條の口説。
いりぢがへる 入達 (自動) 前條の口説。

いりぢがへる 入達 (自動) 前條の口説。
いりぢがへる 入達 (自動) 前條の口説。
いりぢがへる 入達 (自動) 前條の口説。

